令和５年度「見える化」システムを用いた地域分析について

地域包括ケア「見える化」システムを活用した令和５年度の四万十市の地域分析の結果は以下の通りです。

※グラフ及びその元データは全て地域包括ケア「見える化」システムから令和６年 10 月 18 日出力）

比較対象地域について

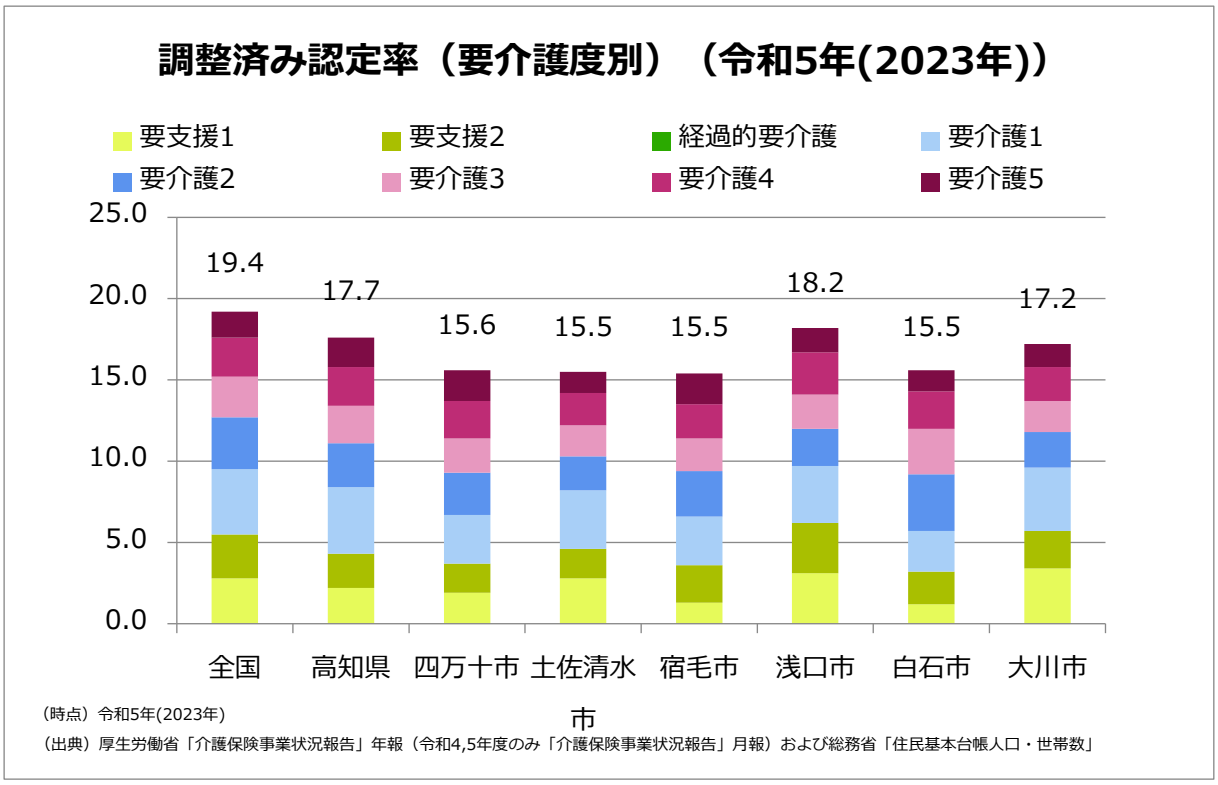
全国平均、高知県の平均のほか、幡多地域の２市（土佐清水市と宿毛市）及び四万十市と人口（約 32,000 人）及び高齢化率（約 37%）が近い岡山県浅口市、宮城県白石市、福岡県大川市と比較を行っています。

１　認定率について

（1）令和５年度の調整済み認定率

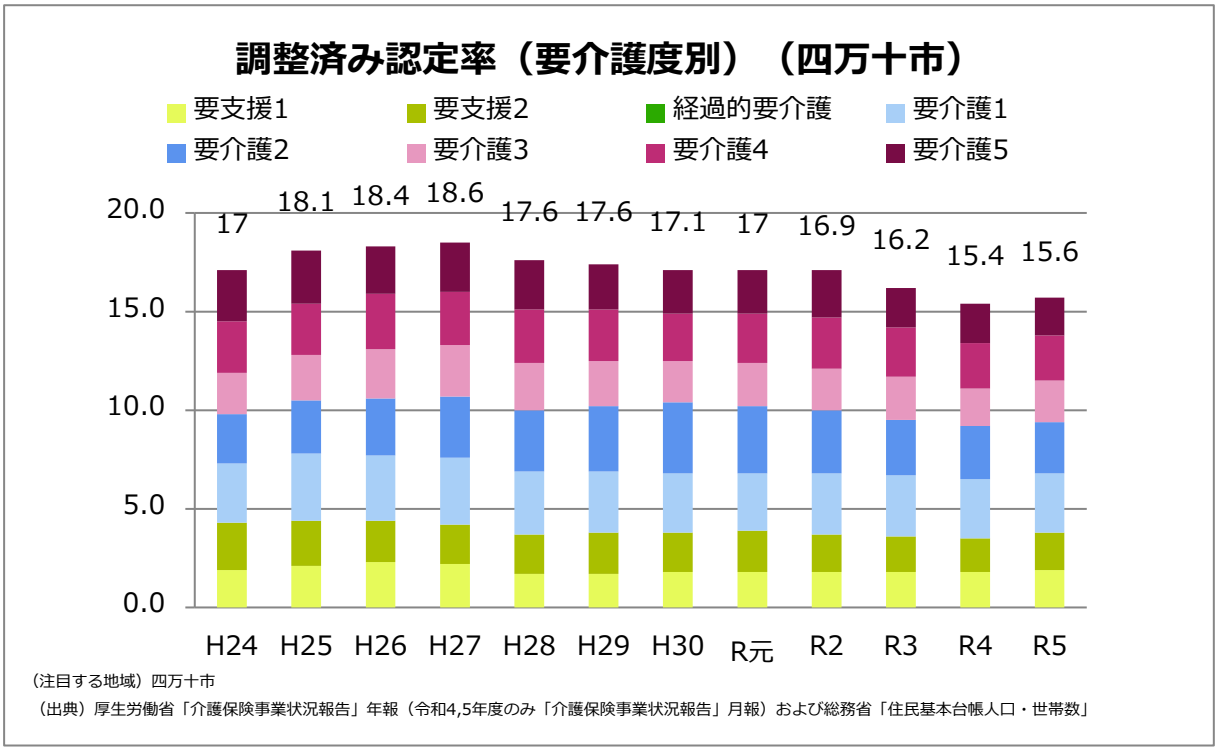
令和４年度における認定率は以下のとおりとなっています。全国や高知県と比較すると大幅に低くなっています。幡多地域ではおおむね同様の傾向となっている一方、同規模の地域との比較では低い値となっています。

認定率が低いことから、元気な高齢者が多いとも考えられますが、一方で、サービスが不足している等の理由から介護保険が使わずに家族等がケアをされている方が多い可能性もあります。



（2）調整済み認定率の推移

調整済み認定率は平成 27 年度をピークに減少傾向となっていましたが、令和５年度は若干上昇しています。今後も認定率が高い後期高齢者の割合が増えることから、認定率は上昇していくと考えられます。

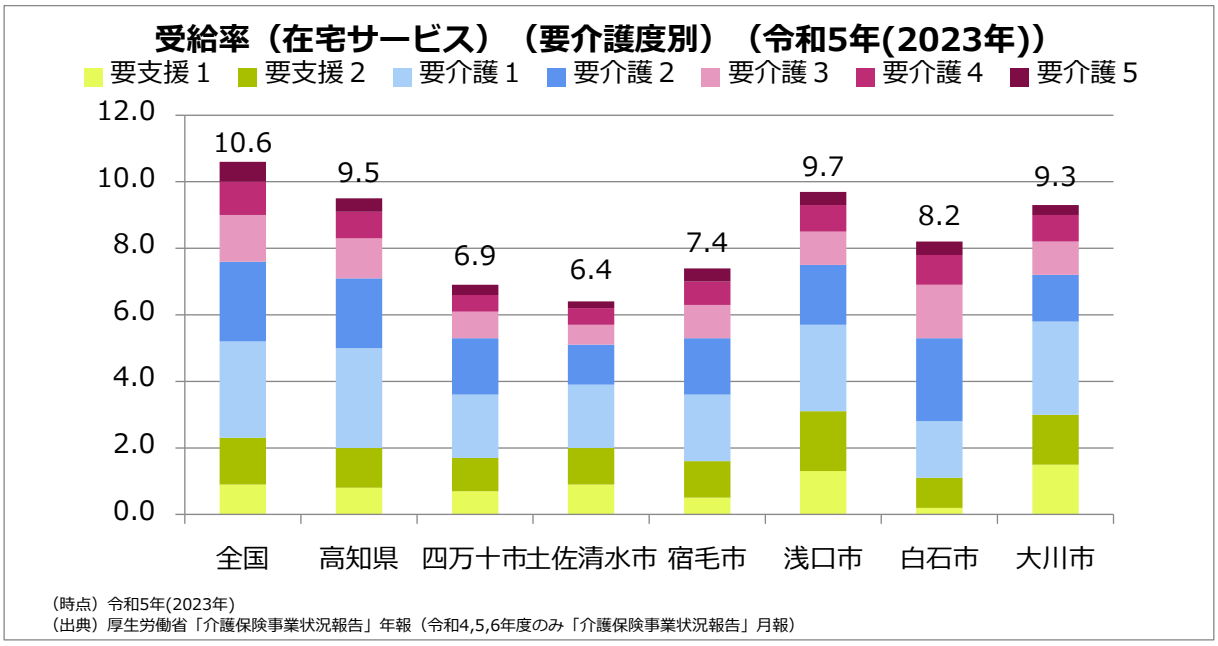


２　受給率について

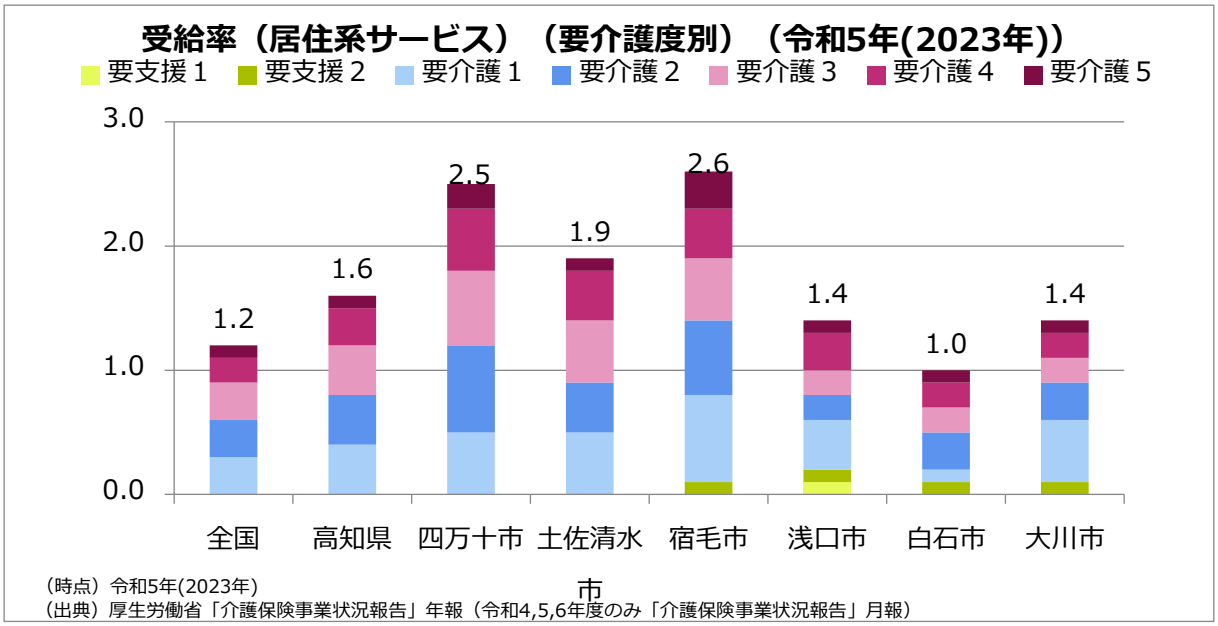
（1）受給率

受給率をサービス種別ごとに見てみます。

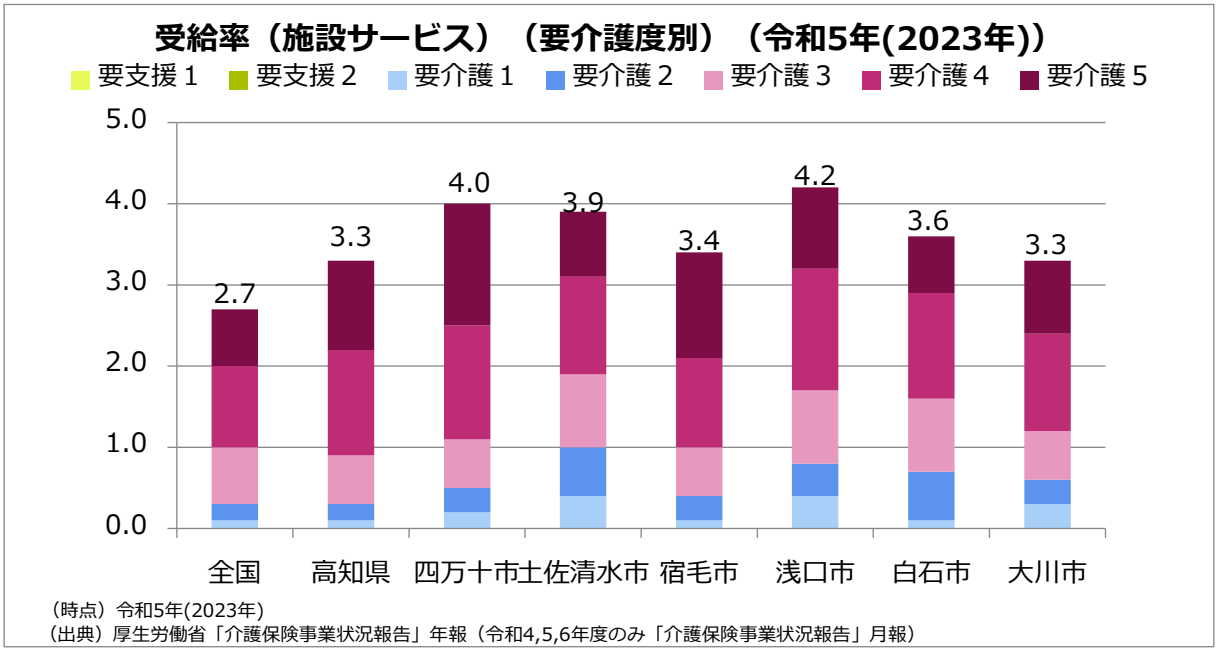
在宅系サービスは幡多地域全体で全国や県と比べて低くなっており、同規模の地域と比較してもかなり低めの数値となっています。



居住系サービスはグループホームなど住まいを提供することに加えて介護を提供しているサービスで、全国、県及び同規模の地域と比較して 2 倍程度の数字となっています。



施設系サービスでは、全国と比較すると、多くなっていますが、幡多地域と同規模の地域と比べると、同程度となっています。



在宅サービスの利用率が低いのは、四万十市は中山間地域が広く、送迎・訪問に時間がかかり、効率が悪いことが要因と考えられます。このことにより、在宅サービス事業所数も少なく、利用率も少なくなっています。同規模の地域でも比較的中山間地域が広い白石市は在宅サービスの利用率が低くなっています。

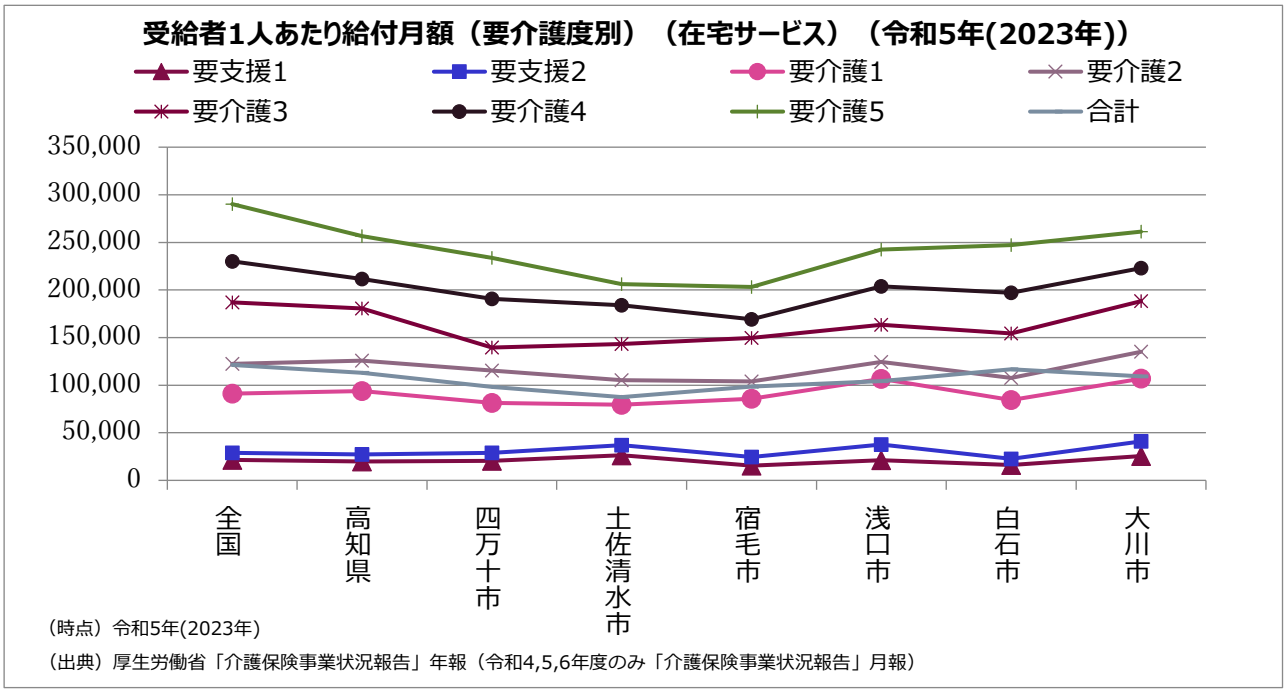
居住系サービス、施設系サービスは、上記の理由から在宅で過ごすのが難しく自宅を離れる方が多いことが要因と考えられます。一方で、居住系サービスは比較的小規模な事業所が多いため、居住系サービスの受給率が高いことは、地域に密着したサービスが行えているといえるのかもしれません。

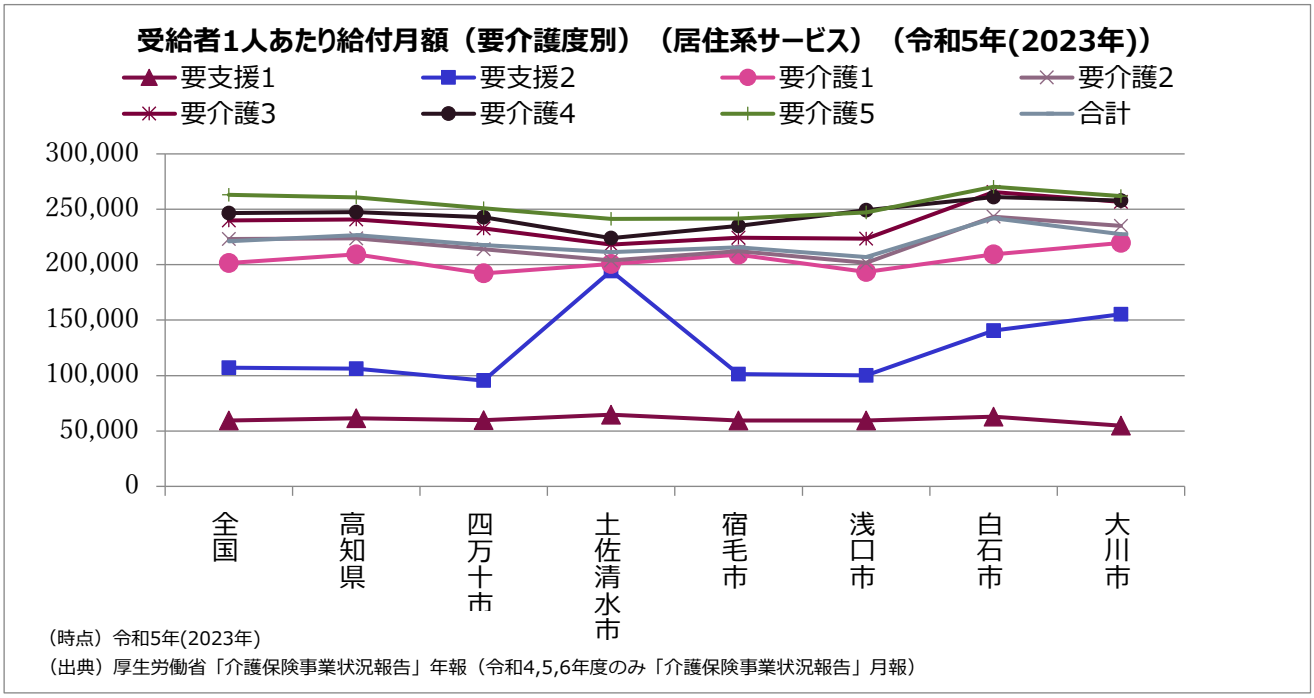
３　受給者一人当たり給付月額

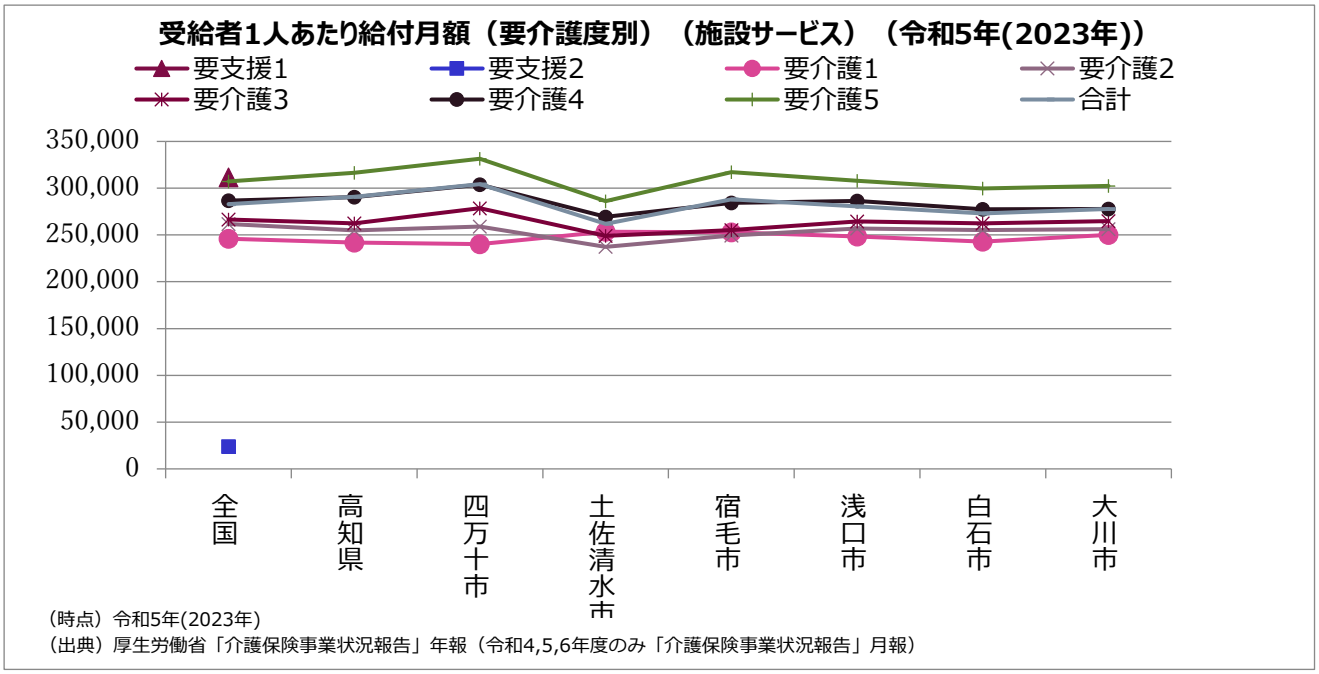
受給者一人当たりの給付月額をサービス種毎に見てみると、在宅サービスは全国や高知県、同規模の地域より少なく、居住系サービスはおおむね全国や高知県等と同様の傾向、施設サービスは全国や高知県等と比べて多い傾向となっています。

介護保険サービスは一般的に重度の認定を受けている方の方が同じサービスでも給付額が高くなりますが、在宅サービスにおいては重度者の給付月額が全国との差が大きくなっています。これは、２で見た通り、在宅でサービスを使うことが難しく、家族等に負担がかかっている可能性があります。

一方で、施設サービスの給付月額が高くなっているのは、施設サービスの中でも単価が高い介護医療院の施設数が多いためと考えられます。



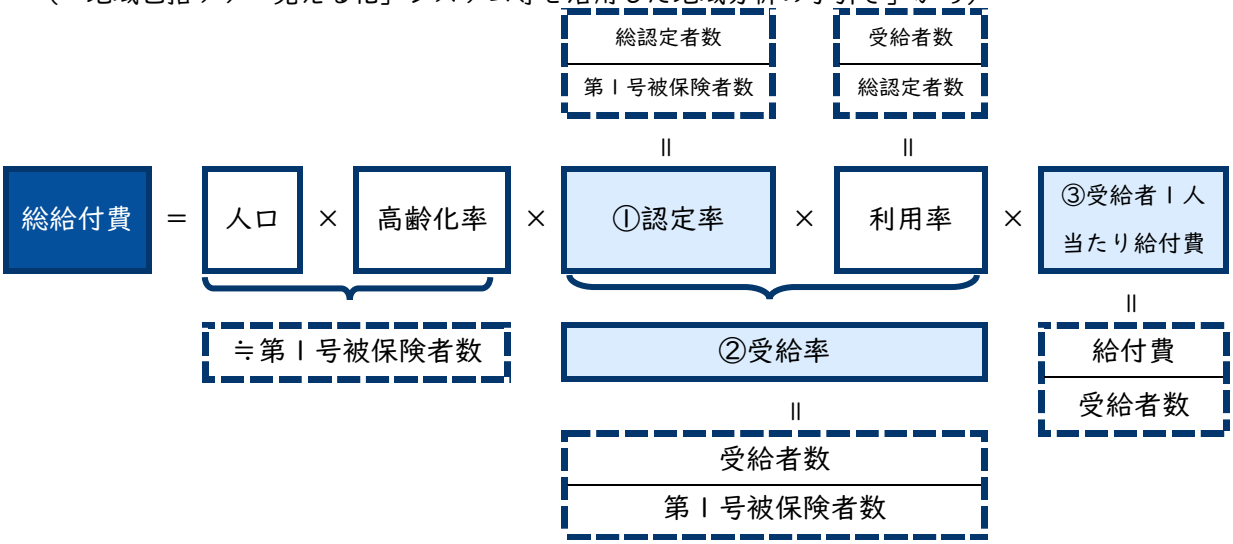




4　まとめ

これらのデータから、四万十市においては、在宅サービスが少なく、施設サービスが充実している状況であることがわかります。そのため、在宅でサービスを利用して生活を維持することが難しく、生活に支障が出たらすぐに施設に入所せざるを得ない方が一定数居られると想定されます。

施設サービスが充実していることは、必ずしも悪いことではありませんが、施設サービスは給付費が高く保険料の上昇を招き、介護保険制度の持続可能性を損なう可能性があります。また、限られた介護人材が、在宅サービスに供給されないという事でもあります。

在宅サービスは介助を行うだけでなく、軽度の内から適切な自立支援のための介護サービスを行うという役割もあります。在宅サービスの拡大、安定的な運営を支援するとともに、介護保険外での自立支援の取り組みも拡充させていくことが必要と考えられます。

給付費と３つの要素との関係
（「地域包括ケア「見える化」システム等を活用した地域分析の手引き」から）